慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究 第五十二巻(昭和五十四年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1979
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.52, No.12 (1979. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19791215-0122

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第五十二巻（昭和五十四年自一号至十二号）総目次

論説

	号数	頁	通頁	執筆者
職歴研究における基本課題	一	一	一	川合隆男
明治一五年刑法三一一条に関する一考察	一	三九	三九	霞信彦
『デモクラシイ』の思想	二	一	一二一	中村勝範
商法といわゆる継続性の原則	二	三〇	一五〇	内川正夫
争議行為と賃金カット——全面ストを中心として——	三	一	二二三	近藤龍司
民主主義論と政治	三	二六	二四八	阿久沢亀夫
オーストリア犯罪学の現状——ラベリング論を中心として——	四	一	三二五	大木啓介
多数決原理とインテンシティ	四	三四	三五八	宮澤浩一
外交官と領事官の間	五	一	四八七	曽根泰教
ドイツ連邦共和国における簡素化された民事訴訟と民訴法学の若干の現実の発展傾向について	五	三五	五二一	内山正熊
ヨーロッパ的見地による製造物責任	六	一	六一七	ペーター・ギレス 石川明訳
エリック・フェーゲリンの政治理論	六	二三	六三九	中松纓子訳 Ernst Klingmüller
大躍進運動をめぐる党内論争	七	一	七一九	小野修三
医療領域における責任——Haftung im Heilbereich——	七	三二	七五〇	石川忠雄 国分良成 Ernst Klingmüller 阿久沢利明訳

静止衛星軌道の法的地位……栗林忠男……一……八四七
――「赤道国家」の主張をめぐつて――
決定ルールの構成原理……曽根泰教……二二……八六八
国際連合における日本の態度……斎藤鎮男……五三……八九九
文化政治論への構想……内山秀夫……一……九五九
ほぼ二年の試錬を経た西独の新家族法……西澤宗英訳……二六……九八四
太平洋問題調査会（IPR）と満州問題……片桐庸夫……四八……一〇〇六
――第三回京都会議を中心として――
『先駆』の思想……中村勝範……一……一〇八九
ピーター・ウィンチの社会科学論にかんする考察……小田博司……一九……一一〇七
『同胞』の思想……中野修三……一……一二二一
国際事業活動に関する情報公開のための法的措置……酒井勝正……二五……一二四五
地域社会研究と地域分析の方法……桜井雅夫……一……一三五七
――『横須賀研究』のための方法論的検討――

研究ノート

時機に後れた攻撃・防禦方法の却下の要件である「訴訟の完結の遅延」の概念について……四……六一……三八五……石渡哲
ドイツにおける錯誤論の基本問題……七……五八……七七六……中松纓子
訴訟促進と訴訟における相殺の主張……十一……六七……一二八七……石渡哲
――簡素化法施行後の西ドイツ民訴法（ZPO）の解釈論を中心として――
ポーツマス条約成立秘史……十二……三三……一三八九……内山正熊

資料

租税法の体系……一……八六……八六……クラウス・ティプケ
租税法の体系を担う原則……二……五四……一七四……木村弘之亮訳クラウス・ティプケ

民事事件における控訴と民事裁判所の審級序列……三　五九　二八一　ペーター・ギレス／三上威彦訳
——ドイツ連邦共和国における上訴法の法政策的・法理論的・法社会学的視点——
オーストリア刑事法学の一断面（追録Ⅰ）……四　七四　三九八　宮澤浩一
オーストリア刑事法学の一断面……五　五一　五三七　宮澤浩一
——第二次大戦後の雑誌論文目録——（追録Ⅱ）
高層建築物による放送電波障害の法的救済……六　五九　六七五　石川明
——現行法の問題点と立法論——
企業合同規制—ヨーロッパにおける経験と問題……六　六七　六八三　Klaws J. Hopt／金子晃訳／三上威彦訳
西ドイツ民訴簡素化法による訴訟促進と失権……七　八三　八〇一　Gerhard Lüke／石渡哲訳
外国国家の免除特権に関する発展の傾向……八　六六　九一二　ゲオルグ・レス／栗田陸雄訳
ドイツ民事訴訟法三〇一条による一部判決の適法性をめぐる諸問題……八　八四　九三〇　オレーク・ドルザノフ／三上威彦訳
株式会社の機関に関する改正意見……九　八二　一〇四〇　商法研究会
ドイツ国際仲裁手続法における牴触法の問題……九　一〇三　一〇六一　Karl Heinz Schwab／石川明／小林隆共訳
韓国の司法制度……十　五六　一一四四　韓国法研究会
スエーデンの現行制裁体系の成立とその評価……十二　五八　一四一四　坂田仁
——新刑罰体系＝理念と提案＝抄訳——

判例研究

〔商法〕一八五　信用金庫の総代会における理事選任の第一次決議の不存在確認請求の却下とそれを改めるためになされた第二次決議の取消請求の裁量棄却……一　九七　九七　衣笠邦彦
〔刑法〕五五　同一の日時場所における免許証不携帯の罪と酒酔い運転の罪との罪数関係……一　一〇三　一〇三　斎藤隆
〔最高裁民訴事例研究〕一六一……一　一一〇　一一〇　斎藤和夫

〔商法〕一八六　株主の提起した取締役の会社に対する損害賠償責任を求める代表訴訟が棄却された事例……二　八一　二〇一　並木和夫
〔最高裁民訴事例研究〕一六二……二　八六　二〇六　三上威彦
〔刑訴判例研究〕一三……二　九〇　二一〇　岩永達美
〔商法〕一八七　除権判決と手形取得者の権利……三　八一　三〇三　倉沢康一郎
〔最高裁民訴事例研究〕一六三……三　八六　三〇八　村田裕
〔刑訴判例研究〕一四……三　九一　三一三　安冨潔
〔商法〕一八八　辞表提出後の取締役への取締役会招集通知もれと決議の効力……四　一四四　四六八　宮島司
〔最高裁民訴事例研究〕一六四……四　一五〇　四七四　石川明
〔商法〕一八九　本店移転の登記はあるが、その決議が不存在である場合における右決議不存在確認訴訟の管轄権……五　一〇五　五九一　加藤修
〔最高裁民訴事例研究〕一六五……五　一〇九　五九五　片山克行
〔商法〕一九〇　会社に融資した金融業者である取締役の監視義務……六　八四　七〇〇　小宮山宏之
〔最高裁民訴事例研究〕一六六……六　八九　七〇五　宗田親彦
〔商法〕一九一　権利外観理論により約束手形の被偽造者の責任を肯定しうるか……七　一〇八　八二六　黄清渓
〔最高裁民訴事例研究〕一六七……七　一一二　八三〇　山崎学
〔商法〕一九二　株主の会計帳簿書類の閲覧・謄写請求権を裁判上行使する場合における対象特定の必要性……八　九五　九四一　加藤修
〔最高裁民訴事例研究〕一六八……八　九九　九四五　西澤宗英
〔商法〕一九三　一、手形権利者が原因関係を欠くにすぎない場合と権利濫用の抗弁
二、二重欠缺の抗弁の対抗を受ける者から裏書によらないで手形債権の譲渡を受けた手形所持人と人的抗弁……九　一一五　一〇七三　並木和夫
〔最高裁民訴事例研究〕一六九……九　一二〇　一〇七八　伊東乾
〔商法〕一九四　「チッソ」株主総会と決議の取消……十　一〇五　一一九三　山田恒久
〔最高裁民訴事例研究〕一七〇……十　一一二　一二〇〇　阪埜光男
三上威彦

〔商法〕 一九五 額面金額の三分の一にも満たない対価で手形を取得した所持人の手形請求と権利濫用……十一 八五 一三〇五 倉沢康一郎
〔最高裁民訴事例研究〕 一七一……十一 八九 一三〇九 坂原正夫
〔商法〕 一九六 有限会社の代表取締役が会社のためにすることを示さないでした酒類等の購入及び金員の借入れについて代表取締役個人に対する履行の請求を認めなかつた事例……十二 一〇五 一四六一 多屋昌治
〔最高裁民訴事例研究〕 一七二……十二 一〇九 一四六五 米津昭子 斎藤和夫

紹介と批評

フィリパ・ストゥラム著『最高裁判所と『政治問題』：司法の回避の一研究』……一 一一三 一一三 小林節
石田 雄著『現代政治の組織と象徴』――戦後史への政治学的接近――……二 九六 二一六 内山秀夫
増田 純男編著『言語戦争』……三 九七 三一九 鶴木眞
マンカー・オルソン二世著『集団行動の理論――公共財とグループの理論――』……四 一五五 四七九 田中宏
H・スミス著 松尾尊兌・森史子訳『新人会の研究』……五 一一四 六〇〇 中村勝範
H・エクシュタイン T・R・ガー共著『権威の類型』……六 九五 七一一 霜野寿亮
J・ハーバーマス著『正統化の危機』……七 一一七 八三五 市川統洋
今永清二著『福沢諭吉の思想形成』……八 一〇四 九五〇 内山秀夫
野口洋二著『グレゴリウス改革の研究』……九 一二五 一〇八三 鷲見誠一
富永健一編『日本の階層構造』……十 一一七 一二〇五 川合隆男
鈴木 広編『コミュニティ・モラールと社会移動の研究』……十一 九五 一三一五 多田真鋤
ハインリッヒ・ボルンカム著 谷口 茂訳『ドイツ精神史とルター』……十二 一一六 一四七二 山田辰雄
李新・孫思白主編『民国人物伝』第一巻……十二

特別記事

殷　寅永氏学位請求論文審査報告……五　一二一　六〇七
宗田親彦氏学位請求論文審査報告……五　一二五　六一一
市川統洋氏追悼記事……十　一三〇　一二一八
山田辰雄氏学位請求論文審査報告……十一　一〇二　一三二二
松村正義氏学位請求論文審査報告……十一　一〇八　一三二八
故　浅井清先生追悼記事……十一　一一三　一三三三